

アー ユー レディ?

# Are you ready?

穂波西中学校学校通信

令和8年8月6日第6号

穂波西中学校校長 森本泰史

今年も、各部活動で生徒たちの活躍は素晴らしいものでした！

6月6日(土)から始まった夏の中体連・中文連の大会は、どの部活動も穂波西中学校の卒業生方がこれまで築き上げてきた伝統をつなぎ、頑張った結果となりました。また、3年生は最後の大会にもなり、1戦1戦に全力で挑みました。1・2年生も大きな声で応援をする、まさにチーム一丸となった姿に感動する場面がいくつもありました。



また、最後の大会を前に、どの部活動も、卒業した先輩が練習をサポートしたり、また、大会当日には、応援にもかけつけてくれた姿やその行動は、後輩の見本となる一面であったと思います。

これまで、汗や涙を流し、仲間たちと過ごしたかけがえのない時間が、チームの想いとして形となり、この夏の最高の思い出となったと思います。

生徒の皆さん、一人一人が頑張った姿が、保護者の皆さんの方々に、本当に夢や希望を届けてくれたと思います。ありがとうございました。生徒達の活躍の結果をお知らせします。

|             |                                                                                                                                                |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 軟式野球部       | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会3位<br>◇筑豊地区中学校総合体育大会出場                                                                                                     |
| 陸上部         | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会出場<br>◇筑豊地区中学校総合体育大会出場                                                                                                     |
| 男子バスケットボール部 | ◇ <b>嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会優勝</b><br>◇筑豊地区中学校総合体育大会3位<br>◇福岡県中学校総合体育大会出場                                                                          |
| 女子バスケットボール部 | ◇ <b>嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会優勝</b><br>◇筑豊地区中学校総合体育大会ベスト8                                                                                           |
| 男子卓球部       | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会5位<br>◇筑豊地区中学校総合体育大会3位<br>◇福岡県中学校総合体育大会ベスト8<br>◇ <b>(芳中孝志朗) 嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会個人優勝</b>                                    |
| 女子卓球部       | ◇ <b>嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会準優勝</b><br>◇筑豊地区中学校総合体育大会第4位<br>◇福岡県中学校総合体育大会出場                                                                        |
| 水泳部         | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会<br>(末廣健成) 50m自由形3位<br><b>200m個人メドレー準優勝</b><br>(末廣奨真) 50m自由形5位<br>100m平泳ぎ4位<br>◇筑豊地区中学校総合体育大会<br>(末廣健成) 200m個人メドレー4位 県大会出場 |
| 男子バレーボール部   | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会第3位<br>◇筑豊地区中学校総合体育大会第5位                                                                                                   |

|           |                                                                                                          |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | ◇福岡県中学校総合体育大会出場                                                                                          |
| 女子バレーボール部 | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会出場                                                                                   |
| 男子ソフトテニス部 | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会出場                                                                                   |
| 女子ソフトテニス部 | ◇嘉麻・嘉穂・飯塚地区中学校総合体育大会団体4位<br>◇筑豊地区中学校総合体育大会出場                                                             |
| 吹奏楽部      | ◇第71回九州吹奏楽コンクール筑豊支部予選 <b>金賞</b><br>◇第42回福岡県吹奏楽コンクール 8月8日福岡サンパレスにて開催                                      |
| 放送部       | ◇第46回福岡県中学校放送コンテスト筑豊地区大会出場<br>(岡松珠希)朗読部門入賞<br>◇(岡松珠希)第62回福岡県中学校放送コンテスト朗読部門出場                             |
| 美術部       | ◇歯・口の健康に関する図画・ポスター標語コンクール<br>図画・ポスターの部<br>(田中聖羅) <b>会長賞</b> (塚本理子)地賞 (岡松心海・手嶋優太)人賞<br>(今津結愛・森千晴・玉田勇ノ助)佳作 |

## 8月2日コスモスコモンにて「飯塚市少年の主張大会」が開催！

～藤井愛夢さん(3年)、田代結夕さん(3年)が想いをもって主張しました！～

8月2日(日)に飯塚市少年の主張大会が、イイヅカコスモスコモンで開催されました。  
本校からは、藤井さんと田代さんが発表しました。内容をご紹介します。



### ～ 題名「一人称と自分らしさ」 藤井 愛夢さん(3年) ～

皆さんは、ふだん自分のことを何と呼んでいますか。英語の一人称は "I" ですが、日本語には「私」「僕」「うち」など、さまざまな表現があります。その違いは単なる言葉の違いではなく、その人らしさを表す一つの形でもあるのではないのでしょうか。

中学生の私は、「私」という一人称を使っています。しかし、昔からそうだったわけではありません。小さい頃の私は、自分のことを「あゆ」と名前と呼んでいました。周りにも同じように名前と呼ぶ友達がいたため、それが普通だと思い、特に気にしたことはありませんでした。しかし成長するにつれて、その呼び方をからかわれることもあり、しだいに恥ずかしさを感じるようになりました。「子どもっぽいと思われるのかな」「また笑われたらどうしよう」と、周りの目を気にするようになったのです。そして気づけば、私は「私」という一人称を使うようになっていました。

そんな私にとって、一人称について改めて考える出来事がありました。自分のことを名前と呼んでいる子に対して、周りの人たちが笑っていたのです。「中学生なのに恥ずかしい」「それはおかしい」といった言葉を聞いたとき、私は強い違和感を覚えました。

さらに、一人称に「僕」や「俺」を使っている女の子に対しても、「変だよ」と否定する場面を見ました。そのとき私は、悔しさと悲しさで胸がいっぱいになりました。単に周りとは違うだけで、なぜそこまで否定されなければならないのでしょうか。もし自分がその立場だったらと思うと、とても耐えられない気持ちになります。

私は、その人たちの一人称をおかしいとは全く思いません。それぞれが自分にとってじっくりくる呼び方を選んでいるだけであり、その一つ一つがその人らしさだと感じるからです。むしろ、自分らしい呼び方を持っていることは、とても尊いことではないのでしょうか。

本来、一人称とは自分自身を表す言葉です。しかし、「普通はこうあるべきだ」という固定観念によって、その枠から外れる人が否定されてしまっています。私は、そのような風潮に疑問を感じます。また、誰かが否定されている場面を見ると、周りの人も「自分も同じように思われたくない」と不安になってしまいます。その結果、本当は自分に合った呼び方であっても、それを表に出せなくなってしまうのです。実際に、私自身も周囲の目を気にして

一人称を変えた一人です。

このような状況が続けば、人はしだいに自分らしさを押し殺してしまうようになります。それは、とてももったいないことです。もちろん、場面によって言葉を使い分けることは大切です。例えば、目上の人や初対面の人と接するときには、相手への配慮も必要です。しかし、日常生活の中でまで自分の表現を抑えなければならないのは、少し不自然ではないでしょうか。

私は以前、LGBTQ+の人たちが一人称に悩んでいるというインターネットの記事を読みました。そこには、「一人称は単なる呼び方ではなく、自分らしさそのものだ」という言葉が書かれていました。この言葉は、私の心に強く残っています。

私は、人それぞれの「らしさ」がそのまま受け入れられる社会になってほしいと願っています。違いを見つけて笑うのではなく、「そういう人もいる」と自然に受け止められることが大切だと思います。

一人称は、一見すると小さな違いに過ぎないかもしれませんが、しかし、その小さな違いを認められるかどうかで、人の生きやすさは大きく変わります。だからこそ私は、これから誰かの呼び方を決して笑ったり否定したりせず、その人らしさとして受け止めていきたいと思います。そして自分自身もまた、周りに流されることなく、自分の気持ちを大切にしながら、「私」らしくあり続けたいです。



## ～ 題名「命を守るための判断と制度」 田代結夕さん（3年）～

皆さんは「選定療養費」という言葉を聞いたことがありますか。選定療養費とは、一定規模以上の大病院を紹介状なしで受診する際、保険診療とは別に全額自己負担で支払う追加費用のことです。では、救急車で搬送されたにもかかわらず、緊急性がないと判断された場合にも、高額な選定療養費が徴収されることがあるのを知っていますか。

この制度は大病院と診療所がそれぞれの機能を分担することが目的とされていますが、その背景には、救急車の不適切な利用が増加し、救急医療がひっ迫しているという問題があります。実際に、緊急性のない軽傷であるにもかかわらず、救急車をタクシー代わりにしたり、「すぐに診てもらえるから」といった理由で救急車を呼んだりするケースもあり、深刻な課題となっています。その一方で、「本当に必要なときでも救急車を呼ぶことをためらってしまう」という声も広がっています。

私は一歳のとき、熱性けいれんを起こしたことがあります。熱性けいれんとは、乳幼児が熱とともに起こす発作で、多くは数分以内に自然に治まり、後遺症の心配もほとんどありません。

その日、母は仕事が休みで家の片付けをしており、私はいつも通り機嫌よく一人遊びをしていたそうです。ところが突然、部屋の隅から激しい泣き声が響きました。母が振り向くと、私は仰向けに倒れ、体を激しく震わせ、目の焦点も合わず、けいれんを起こしていました。何度呼びかけても反応はなく、母にとってあまりにも衝撃的な光景でした。知識もなく、状況も理解できない中で、母の頭に浮かんだのは「このままでは命に関わるかもしれない」という恐怖だけだったといいます。強い不安と焦りの中で、母は震える手で電話を取り、一一九番に連絡しました。救急車が到着する頃には、私のけいれんは徐々に治まっていたのですが、ぐったりとした状態で病院に搬送されました。診察の結果、熱性けいれんとわかり、大事には至らず、その日のうちに帰宅することができました。

この出来事は、当時一歳だった私は全く覚えていないのですが、母にとっては、今でも思い出だけで胸が締めつけられる体験だといいます。母はその後、救命講習を受け、その中で「子どもに突然異変が起きたとき、保護者が冷静に判断するのは難しい。迷ったときは救急に連絡するべきだ」と教えられました。その言葉を聞いて、母は、あのとき救急に助けを求める決断ができたことは間違っていなかったのだと安堵したといいます。

私は母の体験を聞き、「費用がかかるかもしれない」という理由で救急を呼ぶことを躊躇することがあってはならないと思いました。大切な人の危機に直面したとき、パニックになり、冷静でいることなど難しいのが当然です。そのとき、ためらうことなく安心して一一九番できる社会であってほしいと感じます。

そのためには、選定療養費がどのような場合に適用されるのかを、誰もが正しく理解できるよう、自治体や医療

機関が丁寧に伝え続けることが必要です。もちろん、ひっ迫する救急医療を改善するために不要不急の救急搬送を減らしていくことも重要だと思います。本当に必要としている人のために、大切な命を救うために、救急車が迅速に駆け付けられるように、一人ひとりが正しい知識をもち、適切な救急車の利用をしなければなりません。

もし将来、私が親となり、同じ状況に直面したとき、きっと迷いながらも母と同じように助けを求めるでしょう。そしてその判断は間違っていなかったと、胸を張って言える社会であってほしいと願っています。大切な人を救うための行動に、後悔が残ることのないように――。

この体験を通して、命を守るための判断と制度のあり方について、これからも考え続けていきたいです。

## ～今後の予定～

学校閉庁日     8月10日～14日   ※一部部活動は実施。  
学習出校日     8月25日（火）、26日（水）、27日（木）の3日間  
                    ※12：00下校を予定しています。



9月1日（月）から2学期のスタートです。

各学年ともに課題の提出物など、しっかり確認をしてください。

また、9月1日（火）たしかめテスト、9月4日（金）は夏課題テストを行います。

準備をしっかりとしましょう。Are you ready?